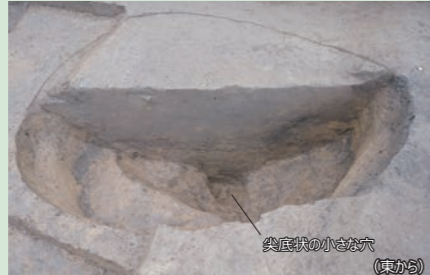


特殊な大穴のナゾ

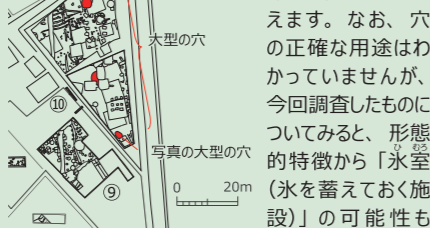
⑤ 原遺跡 (岩沼市南長谷)



▲大型の穴(長径2.5m、短径1.8m、深さ1.1m、中の土を半分掘った状態)

調査範囲の南側でみつかりました。側壁に段が付き、底の中央部分には、幅40cm、深さ22cmほどの小さな穴が設けられ、断面形は尖ったような形をしています。底部の形状から水抜き機能の備えた貯蔵用の穴の可能性が考えられます。

これまでの調査で、類似した規模の大型の穴とみられる遺構が、周辺から複数見つかり、限られた範囲に分布する様子がうかがえます。なお、穴の正確な用途はわかりませんが、今回調査したのについてみると、形態的特徴から「氷室(氷を蓄えておく施設)」の可能性も指摘されています。



▲大型の穴の分布 協力：岩沼市教育委員会

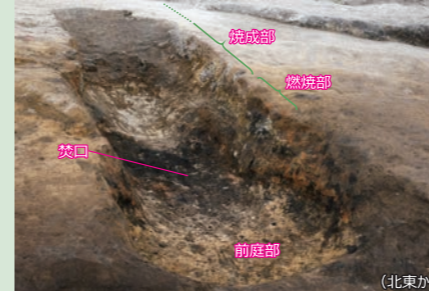
岩沼市南部の阿武隈川左岸の自然堤防上に立地する、奈良・平安時代の交通拠点である「玉前駅家」または「関」と推定されている遺跡です。

平成28年度以降、遺跡の実態を明らかにするための発掘調査が、岩沼市教育委員会によって継続的に実施されています。今回の調査では、大型の穴(土坑)などが確認され、貯蔵のための施設がそなえられていることが明らかになりました。

駅家…都から来た使者が馬を乗り継いだり、休憩したりする施設。関…国境や要所で人や物資の往来を取り締まった役所。

平安時代のつぼ・かめづくり

⑦ 彦右工門橋窯跡 (大衡村大衡駒場)



▲窯跡の調査状況

斜面の下で焚いた火の熱が効率的に上っていくよう造られた窖窯と呼ばれる形です。斜面の上方と天井部分は失われています。焚口には燃料の黒い炭が残り、土器を並べていた焼成部は高温により土の壁や床までもが固く灰色に焼けていました。



▲須恵器が出土した状況

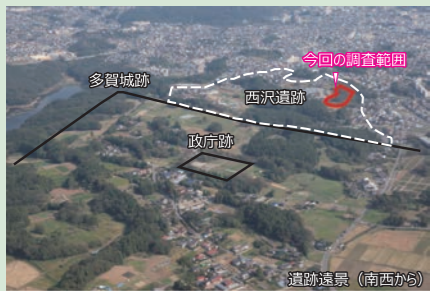
この窯では、大きな壺や甕(液体や食物を貯めておく容器)を専門に焼いていたようで、周辺の窯跡にはない特徴です。上手く焼けた製品は取り出されており、壊れてしまったものなどが残っていました。



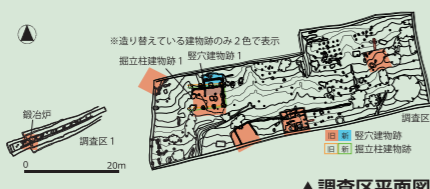
▲須恵器窯の復元想定図 協力：大衡村教育委員会

多賀城跡を支えた古代遺跡

⑥ 西沢遺跡 (多賀城市浮島)



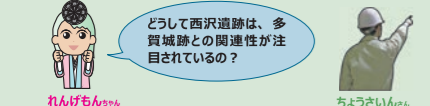
1は、一度造り替えられています。掘立柱建物跡1は、竪穴建物跡1が使われなくなった後に建てられており、この建物も造り替えが行われています。



▲調査区平面図

多賀城跡の東隣にある低丘陵上に立地する遺跡です。これまで多賀城市教育委員会による発掘調査が行われ、奈良・平安時代の竪穴建物跡や鍛冶工房跡が確認されています。灰釉・緑釉陶器、硯の発見や鍛冶工房跡の存在から、多賀城跡との関連性が注目されています。

今回の調査でも、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、鍛冶炉などが確認され、同様の施設が広範囲に広がっていたことが分かってきました。



▲調査区平面図 協力：多賀城市教育委員会

明らかになる中世の信仰

⑧ 熊野那智神社経塚群 (名取市高館)



名取市高館の熊野那智神社の中にある遺跡で、12基の経塚などが確認されています。遺跡のある熊野那智神社は、「名取熊野三山」の一つで、古くから霊場として信仰されてきました。

今回は名取市史編さん事業の一環として、遺跡の中心部にある1～3号塚周辺で発掘調査が行われました。塚に収められた遺物などから、当時の人々の信仰の様子を知る手がかりが得られています。



▲経塚の分布 協力：名取市教育委員会



経塚とは、仏教のお経を容器に入れ、土の塚に埋めたものです。平安時代から鎌倉時代にかけて、日本中で造られました。今回の発掘調査では、3基の経塚を調査しました。

発

掘



山口遺跡・下ノ内浦遺跡 (仙台市)



早風遺跡 (加美町)

令和7年度 宮城の発掘調査パネル展



彦右工門橋窯跡 (大衡村)



熊野那智神社経塚群 (名取市)

調

査

お問い合わせ 宮城県教育庁文化財課 埋蔵文化財第一班 TEL022-211-3684



今回のパネル案内人 **れんげもんちゃん**
宮城県生まれの瓦の妖精。頭の軒丸瓦(蓮花文)がチャームポイント。

YouTube「みやぎ文化財チャンネル」にて文化財動画公開中!



このパンフレットのPDFデータは、ホームページからダウンロードできます。(右のQRコードを読み込むか、「宮城の発掘調査パネル展」で検索)



